

論文の要旨

論文題目	中国人日本語学習者による日本語テキストの語彙の認知処理メカニズム
氏名	大和 祐子
学位	博士（文学）
授与年月日	平成 23 年 3 月 25 日

本研究では、中国人日本語学習者による日本語テキストのオンラインでの読み処理の効率性に影響する諸要因について検討した。各章の実験を通して、明らかになった点は以下の通りである。

中国人日本語学習者は、客観的な事実として共通する書字や日本語と中国語との同根語の数(菱沼, 1983, 1984)などから、一般的に日本語学習に有利であると推測される。それでは、中国人日本語学習者は、その日本語能力にかかわらず、すべての日本語の漢字語を効率的に処理できるのだろうか。この点について、まず第2章で漢字語の語彙性判断課題を通じて検証した。実験に先立って日本語の語彙テストで語彙能力の上位群と下位群で分け、両群の語彙性判断課題における反応速度と誤答率を比較した。その結果、中国人日本語学習者は日本語語彙能力に関係なく、迅速に処理できることが分かった。この結果は、日本語と中国語の漢字語が、漢字という表記形態において言語間距離が近い関係にあった(De Angelis & Selinker, 2001; Deweale, 1998)ことにより、中国語からの母語の転移が起こったものと考えられる。日本語における漢字知識を利用したというより、母語である中国語の漢字知識を援用したため、日本語の漢字語を迅速に処理したと考える方が妥当であろう。

一方、日本語学習者の日本語の語彙能力の違いも、漢字語の処理において関係していた。日本語の語彙力の上位群と下位群には、迅速に漢字語を処理するというスピードに関連がなかったものの、誤答率では明確な差が見られ、日本語の語彙力の豊富さは、語彙処理の正確さには欠かせないことが分かった。つまり、日本語学習者は漢字語の処理においては、母語と同じ漢字で表記されていることを効果的に活用しているものの、日本語として正しい漢字語であるかどうかの最終的な判断においては、日本語の語彙知識が強く影響していることが分かった。

第3章では、第2章で扱った日本語の語彙的な漢字語と対照的ともいえる外来語の語彙処理との比較を通して、双方の語彙処理に学習期間がどのように影響するかを調査した。同じカリキュラムで1年間日本語を学んだ学習者(以下、1年終了生)と2年間日本語を学んだ学習者(以下、2年終了生)で日本語の漢字語および外来語の語彙処理効率に違いがみられるかを検討した。実験にあたって、日本語に書字的に近い漢字語は、学習期間にかかわらず迅速に処理でき、結果的に学習期間の影響はみられないのではないかと仮定した。しか

し、実験の結果では、漢字語・外来語ともに学習期間の影響がみられた。日本語母語話者との差を基準とした場合には、漢字語は処理時間において外来語よりも迅速に処理されており、やはりこの点においては母語の表記形態が同じであることの影響がみられた。しかし、学習期間は、外来語および漢字語の双方で効率的(迅速かつ正確)な処理に貢献していた。とりわけ、高親密度語に比べて、低親密度語において学習期間の違いによる効率性の伸びが顕著であった。

第4章では、中国人日本語学習者にとって、日本語の外来語の語彙処理およびテキスト処理において、学習経験のある英語知識の影響がみられるのではないか、という仮説を検証した。実験には、一般的な語彙力を測る語彙テストによって区分された上位群と下位群の学習者を対象に、外来語の語彙性判断課題、英単語の語彙性判断課題および自己制御読み課題を課した。その結果、外来語の語彙処理能力では、日本語の語彙能力による影響が見られ、とりわけその影響は親密度の低い語において顕著に見られた。一方、英単語の語彙処理においては、日本語の語彙力で分けた上位群と下位群には違いがみられず、両群は英単語の処理においては同程度の処理能力だったといえる。外来語を多く含むテキストの処理においては、テキストの読後に行った五者択一の問題の正答者数と誤答者数の割合で上位群と下位群で読みの「正確さ」を比較したところ、両群には傾向差が見られ、読みの「迅速さ」については、テキストの種類(トピック)による差は見られるものの、テキストの1語あたりの平均処理時間では、上位群は下位群より有意に迅速に処理できていることが明らかになった。最後に、以上の外来語の語彙処理、英単語の語彙処理、外来語を多く含むテキストの処理において因果関係を明らかにするために、被験者全員を対象としてパス解析を行った。その結果、L2である英単語の語彙処理については、L3である日本語の外来語の語彙処理からの直接の有意な因果関係が見られた。しかし、外来語を多く含むテキストの読みからの有意な因果関係は見られなかった。次に、L3である日本語の外来語の語彙処理については、L2である英単語の語彙処理からの直接の有意な因果関係が見られた。さらに、テキストの読みからの直接の有意な因果関係も見られた。最後に、テキストの読み処理については、外来語の処理から直接の有意な因果関係が見られた。しかし、英単語の処理からの直接の因果関係は有意ではなかった。このことから、外来語を多く含むテキストの語彙処理に対して外来語の語彙処理能力が影響を及ぼしていることが分かる。しかし、それだけではなく、英単語の語彙処理能力は、直接的に外来語を多く含むテキストの処理には影響を及ぼすわけではないが、外来語の語彙処理を介して外来語を多く含むテキストへ影響していることが実験から実証された。このような結果がみられたということは、L1の中国語とL3の日本語の外来語より、L2の英語とL3の日本語の外来語のほうが、言語間距離が近いことを示していると考えられる。

第5章では、テキストのオンライン読みについて、さらに詳細に検討した。漢字語を多く含むテキストと外来語を多く含むテキストの各語の処理時間と処理時間の推移を日本語の語彙能力の上位群と下位群で比較した。その結果、漢字語を多く含むテキストでは、親

密度が低い漢字語でも語彙能力に関係なく一定の迅速さで処理できており、テキストの主要な語のほとんどで、語彙能力の差はみられなかった。これは、母語との書字が同じである漢字語を、母語の語彙知識を援用して処理しているためであると考えられる。それに対して、外来語を多く含むテキストにおいては、日本語の語彙能力の影響が現れた。とりわけ語彙能力の差が処理速度に影響したのは、固有名詞などを除く、下位群の学習者にとって親密度が低いと思われる外来語であった。さらに、読みの推移では語彙能力の低い学習者は特に特定の語で極端に処理時間がかかっている傾向がみられた。おそらく、これらの語は視覚提示された文字を1文字ずつ音韻転換する必要があったため、長い処理時間を要したのであろう。以上のように2種類(漢字語を多く含むテキストと外来語を多く含むテキスト)で比較することによって、読みの効率性は語彙の処理効率に依存していることが分かった。このことから、オンラインのテキストの読みに母語と日本語の書字の違いおよび語彙能力が影響していることが実証された。

第6章では、比較的複雑な文構造の文を含むテキストをオンライン読みする際に、語彙能力・文法能力がどのように影響するか検討した。実験に先立って、研究対象者に語彙テストと文法テストを行い、語彙能力および文法能力でそれぞれ上位群・中位群・下位群の3グループに分け、テキストの句ごとの読み処理速度について比較した。まず量的な分析では、語彙能力が句の処理時間に影響を与える箇所が総句数の39.84%を占めるのに対し、文法能力が句の処理時間に影響を与える箇所は総句数の6.50%と限定的であることが分かった。そこで、句の処理時間に対して、特に語彙能力の影響が強かった部分の特徴について、さらに詳しく検討した。

句の処理時間に対し語彙能力が影響を与える部分には、大きく分けて①語彙能力の影響が単独でみられた句と、②連続していくつかの句で語彙能力の影響がみられた部分があった。①語彙能力の影響が単独でみられた句の特徴としては、外来語・和語・中国語に同表記の語がない語が含まれる句で、日本語としての語彙知識が必要な語を含む句であった。そのため、日本語の語彙としては難易度が高い語とされるものでも、中国語の語彙知識が援用できる中国語に同表記語が存在する語を含む句は全体的に迅速な処理ができ、語彙能力による処理時間の差はみられなかった。また、比較的難易度が高い外来語は、語彙知識で分けたどのグループに属する学習者でも処理時間が長かったが、語彙知識による処理時間の差はみられなかった。②連続していくつかの句で語彙能力の影響がみられた部分の特徴としては、長い一文で、特に複雑な修飾関係を持つ部分であった。照応判断が必要な部分がある場合や内容節の連体修飾構造が見られる場合などは、語彙能力による処理時間の差が連続して現れていることが分かった。このように文法構造が複雑な文であっても、文法能力による差ではなく、語彙能力による差が明確に現れる理由としては、複雑な修飾関係を持つ文の処理には、複数の語の共起的な意味関係の理解が必要で、語彙の意味に焦点をあて、それをつなぎ合わせるようにして処理しているためであると考えられる。一方、文法能力による処理時間の差は、複雑な文法構造の中でも要となる部分に限られた。これ

らの実験結果を総合すると、テキストの処理においては個々の語および複数の語が織りなす意味を語彙能力を用いて理解しつつ、文法構造が複雑な文の要の部分で文法知識が関与していることが示唆された。

以上のように、本論文では中国人日本語学習者のテキストのオンライン読みにおいて、語彙に依存した処理を行っており、語彙知識の豊富さがテキストの読みに影響を与えることが実証された。また、日本語の語彙能力のみならず、母語との書字の異同は直接的に処理時間に影響しており、これはテキストの読み処理時間にも影響を及ぼすものであった。さらに、学習経験がある語の処理能力の影響についても、書字の違いなどはあっても、処理のスピードに間接的に影響を及ぼしていることが明らかになった。